追悼　嵐護兄を偲ぶ

平口　哲夫

嵐護兄は 2022 年 8 月 23 日、74 歳にて逝去。ご訃報を知ったのは、同年 10 月 26 日に届いた奥様「あずさ」さんからの郵便ハガキによるものです。その日のうちに念のため東北大学ＹＭＣＡ1962―1972 入寮者ＭＬと渓水寮ＯＰメーリスに訃報の文面を引用して送信。その一部を以下に紹介します（段落は設けず、句読点を挿入し、漢数字は追悼文の表記に合せました)。

「葬儀は 8 月 26 日に相済ませました。2017 年 11 月悪性リンパ腫が再発し、牧師として勤めることは困難とされ、2018 年 3 月倉敷市児島より帰高いたしました。2020 年 7 月に脳梗塞を発症し入院、2 年の入院治療の末、生涯を閉じました。お世話になり親しくさせていただいた皆様へのお知らせが、このように遅くなりましたことを深くお詫び申し上げます。ここに生前のご厚誼を深謝し　謹んでご通知申し上げます。」

その引用に続けて、私は「療養中の嵐兄とは電話やメールや郵便などで交流が続いていたのですが、あるときから途絶えてしまったので、症状が悪化したのかと心配しながらも、こちらから連絡をとるのは遠慮しておりました。しかし、連絡が途絶えてからだいぶ月日が経ちますので、奥様に連絡をとってみようかと思った矢先の訃報でした。万感迫るものがあります。」と記しておきました。

嵐兄は高知市出身、1967 年 4 月に東北大学法学部に入学、同期新入生の沢村牧人（工）・新貝和照（理）・柿崎光雄（工）の三兄と共に入寮。当時、私は文学部考古学専攻の 3 年生でした。私のアルバムには、同年 10 月 10 日に川内聖書研究会が行なった奥新川ピクニックの写真が 9 枚貼られています。東北大学基督教青年会の会報第 11 号（1969 年 4 月発行）収録の「朝拝ノート抜粋」には、嵐兄による 1968 年 12 月 17 日ノートと、これに対して私がコメントした同年同月 18 日ノート・補遺が掲載されています。嵐兄のノートはほぼ 2 頁分で「朝拝が礼拝なのか否か」を問い、「朝拝は礼拝ではない、例えば寮生相互間のコミュニケイションの場であると言い切ってしまった方が、すべてすっきりするのでないかと最近考え出した」と言いながらも、なお呻吟する様子がうかがえる文章です。嵐兄は「宮田学生聖書研究会」主宰者の東北大学法学部教授・宮田光雄先生に師事なさったことも特筆に値します。

1967 年に法学部を卒業した嵐兄は同年、高知県庁に入庁、1973 年 10 月 14 日、秋野勉牧師の司式により日本基督教団の土佐教会にて結婚、同年 12 月 23 日に洗礼を受けられました。

その翌年の 3 月に私は東北大学文学研究科国史専攻考古学の博士課程を単位取得満期退学し、4 月に金沢医科大学教養部（現・医学部一般教育機構の前身）の講師に就任。その頃に所用で金沢に立ち寄られた嵐兄と、ＪＲ金沢駅付近で再会して歓談。渓水寮で生活を共にしたときにも耳にした話ですが、嵐兄は、実は旧制・第四高等学校があった金沢にあこがれていたので金沢大学に入学したかったのだそうです。なぜそうしなかったのかについては、ご本人はなにも語っていませんが、金沢大学の場合、法文学部の法科だったので、法学部のある東北大学を受験することにしたのでしょう。

2004 年 4 月 7 日に脳梗塞を発症した私は金沢医科大学病院に入院し、同月 24 日に退院、連休明けの 5 月 6 日に職場復帰。右指が上手く使えないという後遺症がありましたが、高知県室戸市で開催の第 3 回日本伝統捕鯨地域サミットに予定通り参加することにし、慎重を期して妻と娘に付き添ってもらいました。サミット終了後の 5 月 31 日には、高知市内にある土佐藩主山内家下屋敷跡に建つ「三翠園」に宿泊し、前もって連絡しておいた嵐兄ご夫妻を加えた 5 人で夕食会を共にした次第です。そのときお土産にいただいた木彫りの土佐犬は、動物グッズのコレクションに加えて飾ってあります。以後、嵐兄とは主にＥメールでの交流を深めることになりました。

2008 年 3 月に高知県庁を定年退職なさった嵐兄は、同年 4 月に同志社大学神学研究科（博士課程前期）に入学、2010 年 3 月に修了。同年 4 月、倉敷

市児島にある日本基督教団琴浦教会の教師に就任。2012 年 11 月、正教師として同教会主任担任教師に就任。当時、私はワイズメンズクラブ国際協会西日本区中部に属する金沢犀川クラブの会員だったので、西日本区大会や中国地方の各部会などが中国地方で開催された際に琴浦教会を訪ねてみたいと思っていたのですが、タイミングが合わず、実現しませんでした。

金沢医科大学のメールソフトをもっぱら使っていたメールは、自分のハードディスクに保存しておかないと、定期的に削除されてしまうので、2011 年 3 月の定年退職に備えて前年から、勤務先関係以外のメールはフリーアドレスを用いることにしたので、嵐兄との交信記録は 2010 年以降のものしか手元に残っていません。

会報第 47 号（2011 年 5 月発行）掲載の平口著「元寮母・小西綾子さんを偲ぶ」と嵐著「《追悼》おばさん―小西綾子さん―」は、お互いメールで連絡しながら原稿作成したものです。嵐兄が定年退職の前年に奥様と一緒に東北旅行をなさった際、小西さんが入所していた特別老人ホーム「暁星園」を訪ねたことなどを詳述していることからも、思いやりがあって熱血漢の土佐魂が感じられます。

『私の山形物語　渡部治雄のあしあと』（渡部昌子・2015 年 12 月発行）に収録された平口著「渡部治雄先生との交流―学科志望と寮新築を中心に」と嵐著「正直に生きた渡部治雄先生」の原稿も互いにメールで連絡しながら仕上げました。この追悼文からも嵐兄の熱い思いが伝わってきます。

しかし、2011 年 12 月 24 日から 2015 年 6 月 5 日までの期間は、嵐兄とのＥメールによる交信はありません。交信が中断したのは、嵐兄が 2013 年 4 月に悪性リンパ腫を発症し、化学療法の治療をうけて寛解したという闘病生活が原因だったのでしょう。

2015 年に嵐兄は日本基督教団東中国教区の総会で議長に選出され、教区のモメゴトの解決に苦労されたようですが、2017 年に悪性リンパ腫が再発し、放射線療法を受け、悪性リンパ腫そのものは改善されたものの、副作用が目立つようになり、牧師継続が困難になった結果、2018 年 3 月に琴浦教会の牧師を辞し、高知市神田のご自宅に戻られ、4 月に高知市百石町の日本基督教団潮江教会に転入。琴浦教会牧師退任を記念して、私の母の遺作の色紙絵を嵐兄に贈呈したところ、とても喜んでくださいました。

嵐兄の著書『正直に生きた牧者　柏木義円に魅せられて』（同朋舎、2018 年 12 月 25 日発行）を寄贈いただいた御礼のＥメールでは、とりあえず渓水寮関係の箇所を読んでの感想を記し、そのとき編集中だった『放牧者・説教者　井上良彦―神共にいます―』（井上良彦先生説教集編集委員会編、2019 年 3 月 20 日発行）を嵐兄にも贈呈したところ、好評の返信がありました。

ところで 2018 年 4 月 16 日に新貝和照兄から久々にＥメールがあり、嵐兄からの転居案内ハガキに悪性リンパ腫にかかっていることが記されていたので驚き、ご自身も 2 月にステージ 4 の直腸ガン宣告を受け、あちこちに転移し、余命 30 ヶ月と医師から言われたことを嵐兄に知らせたとのことです。これを機に、私は新貝兄ともＥメールでの交信を度々するようになりました。残念ながら新貝兄は医師の予想よりも早く 2019 年 9 月 29 日に逝去、10 月 7 日に前夜式、10 月 8 日に告別式が川崎市のエヴァホール津田山で行われる旨、新貝兄の弟の新貝講治氏が嵐兄に宛てたＥメールの転送により知りました。新貝兄を偲ぶ追悼文は別の機会にと思います。

この追悼文を書くため嵐兄の奥様に電話をかけ、略歴を速達郵便で送ってくださるようお願いし、届いた略歴を見ながら電話でいろいろお尋ねしました。前夜式は潮江教会で、葬儀は土佐教会で行われたとのことです。天に召された嵐兄を偲び、ご遺族のご安寧をお祈り申し上げます。

註：この追悼文は、従来の会報が縦書きであったことから、縦書き用に原稿を仕上げて提出したが、会報の書式が本号から横書きに変更されたので、年月日などが漢数字のまま印刷・発行されてしまった。ウェブサイトに転載するにあたり、漢数字よりもアラビア数字のほうが適切な箇所については、そのように変換した。また、ついでに文末から 8～9 行目の文章を修正した。